



学校だより 7月号

つなぐ



夜空を見上げてみる

～ 伝説の話を読み解く ～

梅雨に入ったかと思えば、短時間で急な雨に困りましたが、晴れると今度は30度以上の真夏日になるという具合で、極端な天候や気温の変化に振り回されています。7月が始まりますが、沖縄地方以外の地域でも梅雨明けという言葉が出て来ています。長い夏、そして猛暑が続きそうですが、健康管理をしっかりして過ごしていきたいものです。

ところで、7月と言えば「七夕」。皆さんが知っているお話と言えば、ロマンチックな織姫と彦星の星物語でしょうか。そのルーツはというと中国になります。二人の出会いを祝い、中国で「乞巧奠」（きっこうでん）という行事が催されるようになりました。「乞」は願う、「巧」は巧みに上達する、「奠」はまつるという意味で、織姫にあやかり機織りの技が上手くなるように、ひいては様々な手習いごとの上達を願いました。それでは日本において、なぜ「七夕」（たなばた）と呼ぶようになったのでしょうか。

日本では機で織った布を祖先の霊や神にささげたり、税として収めたりしていました。「七夕」のこの時期は、お盆や稲の開花期、麦などの収穫期にあたります。と言っても旧暦のお話。今の暦でいう8月にあたります。そこで、お盆に先立ち祖霊を迎えるために乙女たちが水辺の機屋（はたや）にこもってケガレをほらい、機を織る行事が行われていました。水の上に棚を作って機を織ることから、これを「棚機」（たなばた）といい、機を織る乙女を「棚機つ女」（たなばたつめ）と呼びました。笹竹には、神迎えや依りついた災厄を水に流す役目がありました。やがてこの行事と乞巧奠が交じり合い、現在のような形に変化していきました。そして、7月7日の夕方を表して七夕（しちせき）と呼ばれていたものが、棚機（たなばた）にちなんで七夕（たなばた）という読み方になっていったのです。梅雨明けも言われていますので今年は天の川の星々をきれいにみるができるのでしょうか。

物事のいわれをしっかり読み解くと真実が見えてくることがあります。見えているもの、聞こえているもの、感じているものは、それぞれは事実ではありますが、真実であるとは限りません。表面上のことだけで判断することは間違いにつながります。その裏側までしっかり読み解いた上で、落ち着いた行動と判断ができるように心がけたいものです。

生徒の皆さんはいよいよ第1学期期末試験になります。そして試験が終わるとすぐに夏休みに入ります。夏の過ごし方は人それぞれかと思いますが、先を見る前にまずは1学期の総まとめをしましょう。準備の大切さは文化祭での取組でよく分かっていると思います。学習における試験準備でも同じです。自分自身としっかり向き合い試験に向けた対策を十分に言い試験に臨みましょう。期待しています。

結びになりますが、先月は桜陵祭の実施にあたり、保護者の皆様をはじめ、関係各所の方々にたいへんお世話になりました。天候は決して恵まれたものとは言えませんでした。特に保護者会物産展では朝から雨が降り準備がたいへんでしたが、何とか無事に開催し怪我等も無く無事に終えることができました。厚く御礼を申し上げます。